

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

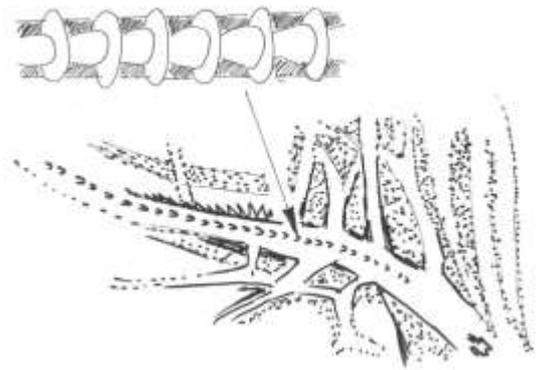
平成27年9月28日 NO.52 (252)

花ちゃん 「モンタ博士、このごろ夜になると、秋の虫の鳴き声が聞こえて、とってもいいですね。でも、どうして虫は鳴くのかな。」

モンタ博士 「そうだね。虫の音とともに秋を感じることが大切だね。国立七小の校庭のコスモスももう少し咲き始めたね。ところで、秋の虫が鳴くわけは、オスが羽をこすり合わせて、メスにラブコールを送っているからなんだよ。」

花ちゃん 「モンタ博士、オスは羽と羽をこすり合わせて鳴くというけど、そんなにかんたんに音が出るのですか。」

モンタ博士 「羽のうらに太い脈があって、その脈にヤスリのようなものがついてるんだ。そして、もう一方の羽のまさつ片をこするといいわけさ。バイオリンにちょっとにている感じかな。」



オー君 「ところで、花ちゃんは、秋の鳴く虫でどんな虫が好きだい。」

花ちゃん 「やっぱり、私はスズムシが一番好き。それから、コオロギもすてきな鳴き声を聞かしてくれるわね。」

オー君 「ねえ、花ちゃん。コオロギといっても、いろいろな種類がいて、鳴き声もみんなちがうの知っていた。」

花ちゃん 「コオロギって、みんな鳴き声がおなじじゃないの？」

オー君 「ちがうよ。おいらは、鳴く虫の音を録音したんだ。花ちゃんにも聞かせてあげるよ。」

ということで、みんなで『秋の虫の音コンサート』を聞くことになったとき……

オー君 「まずは、エンマコオロギだ。こいつはきれいな声なんだ。」

エンマコオロギ 「コロコロリー。コロコロリー。」

オー君 「つぎは、オカメコオロギだ。4、5音ずつくぎって鳴くよ。」

オカメコオロギ「リッリッリッリッ、リッリッリッリッ。」

オー君 「最後^{さいご}は、ツツレサセコオロギだ。長^{なが}く鳴^なき続^{つづ}けるよ。」

ツツレサセコオロギ「リ・リ・リ・リ、リ・リ・リ・リ。リ・リ・リ・リ、リ・リ・リ・リ。」

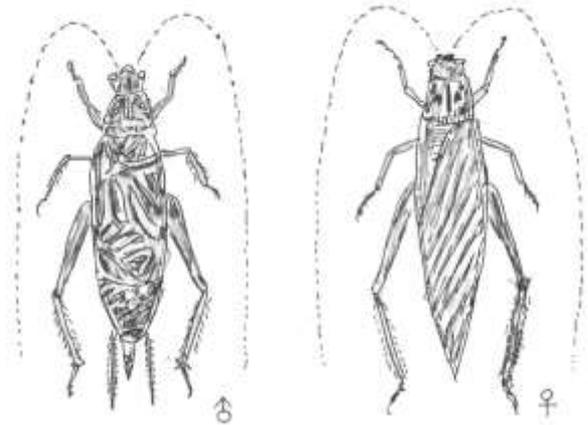
花ちゃん 「なーるほどね。ところで、私^{わたし}は小^{ちい}さい時^{とき}からピアノを習^{なら}っているから、耳^{みみ}には自信^{じしん}があるんだけど、さっきから、かん高^{たか}い声^{こえ}で、チリチリチリっていうか、ジリジリジリっていうか、リーリーリーって感^{かん}じかな。何^{なん}だかうるさい感^{かん}じで鳴^ないている虫^{むし}がいるように聞^きこえるんだけど・・・。」

オー君 「そうなんだ。このごろ、アオマツムシというやつが、ものすごく増^ふえているんだ。明^{あか}るい外^{がい}とうにもよく集^{あつ}まるんだ。」

花ちゃん 「そのアオマツムシって、コンビニのあかりにもよく来^くる虫^{むし}かな。」

モンタ博士「そのとおり、このアオマツムシというのは、もともと日本^{にほん}にはいなかった虫^{むし}でね、帰^き化^か昆^{こん}虫^{ちゅう}（外国^{がいこく}から来^きた虫^{むし}）というのさ。日本^{にほん}の虫^{むし}の鳴^なき声^{こえ}がかき消^けされてしま^{かん}う感^{ざんねん}で残念^だね。」

花ちゃん 「歌^{うた}にある♪あれマツムシが鳴^ないているチンチロ・チンチロ・チンチロリン♪というマツムシとはちがうんですか。」



アオマツムシのオス(左)とメス(右)

モンタ博士「形^{かたち}はよくにているけど、色^{いろ}がちがうんだ。それに、マツムシ

は草^{くさ}はらや林^{はやし}のふちで鳴^なくんだ。でも、アオマツムシは木^きの上^{うえ}さ。」

花ちゃん 「外国^{がいこく}から来^きた虫^{むし}が、どうしてそんなに増^ふえたのかな。」

モンタ博士「日本^{にほん}の鳴^なく虫^{むし}はほとんど土^{つち}の中^{なか}にタマゴを産^うむんだけど、アオマツムシは、木^きにタマゴを産^うむそうだよ。それで、同じ^{おな}ような所^{ところ}に生^{せい}活^{かつ}する虫^{むし}が日本^{にほん}にはいないので、たくさんはびこってしまったというわけさ。」

生態的地位(ニッチ)の空間に侵略されつつある日本！すだく虫の音は何処へ！

生態系の中で個々の動物や植物の種類がその存在を占める相互関係を生態的地位(ニッチ)という。日本の生態系にはアオマツムシのように木に卵を生むバッタ類は存在しなかった。そこで、その生態的地位の空間をねらってはびこっているわけである。道を歩いていて、草むらから聞こえてくる虫の音は日本産である。なお、「すだく」という言葉は草叢などに虫たちが集まり鳴く様子を言うのである。もし、木の上の方で鳴いていたら、まずアオマツムシに間違いはない。日本の秋の風情を静かに楽しみたいのになあ…。残念無念だ！